

## 肺性肥大性骨関節症を呈した 転移性肺腫瘍の1例

清水幸生, 土田龍郎, 伊藤春海

### はじめに

肺性肥大性骨関節症 (pulmonary hypertrophic osteoarthropathy, PHO) は、原発性肺癌をはじめとする肺疾患への合併が知られている。今回、われわれは比較的古くからの転移性肺腫瘍での PHO の合併を経験したので報告する。

### 症 例

43 歳, 男性。

主 訴: 息切れ, 下肢関節痛。

現病歴: 2000 年 7 月より主訴出現。9 月に胸部 X-P にて、左胸水を認め、骨シンチにて下記の異常を認めた (Fig. 1, 画像所見にて解説) ため、精査加療目的にて入院。

既往歴: 1998 年 12 月, 耳下腺癌にて手術, 化学療法施行。

1999 年 3 月, 局所再発に対し放射線治療, 化学療法施行。

同年 11 月, 脳, 後頭部骨転移に対し, 放射線治

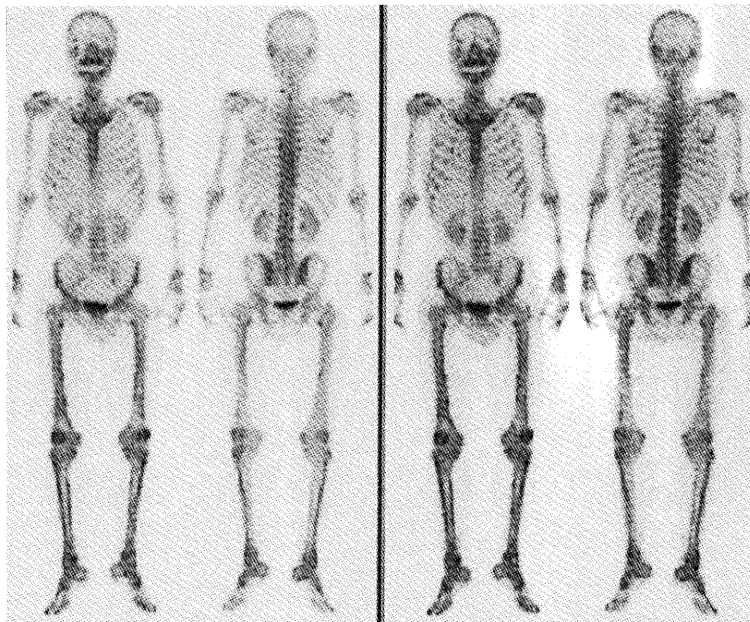


Fig. 1 骨 Scintigraphy

Pulmonary hypertrophic osteoarthropathy in patient with metastatic lung tumor

Yukio Shimizu, Tatsuro Tsuchida, Harumi Itoh

Department of Radiology, Fukui Medical University

福井医科大学放射線科 〒910-1193 福井県吉田郡松岡町下台月 23

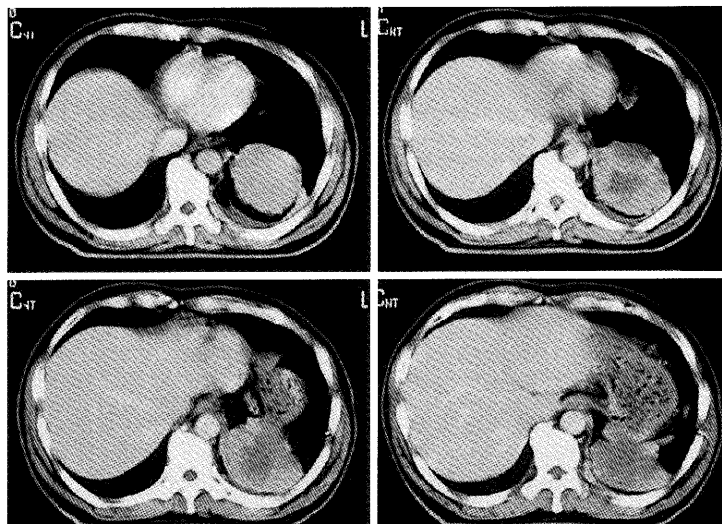


Fig. 2 CT

療，化学療法施行。

### 画像所見

骨シンチ：両下肢骨に線状のRI集積の増強を認める。

CT (Fig. 2)：胸穿刺後，左下葉に不均一に染まる径8 cmの腫瘤を認める。

### 経過

左下葉の腫瘤に対し，CTガイド下肺生検を施行。病理組織は，adenocarcinoma。1998年に切除された耳下腺癌と組織が酷似しており，耳下腺癌からの肺転移と診断された。その後，化学療法にて腫瘤は著明に縮小した。

### 解説と考察

PHOは，さまざまな肺疾患に合併し，腫瘍性病変においてはその病巣の切除後，速やかに下肢痛等の症状の消失を伴う。本症例においても，病変の縮小とともに下肢関節痛の軽減が認められた。その発症機序は，依然不明であるが，組織学的には骨膜の浮腫，肥厚などが認められ，X線においても骨膜の肥厚，タマネギ様陰影といった骨膜反応が見られる。骨シンチにおける長管骨に沿ったRI集積の増強は典型的な所見で，X線の所見に先立って見ら

れることも多く，診断的価値が高い。本症例においても，下肢X-Pにおいては，明らかな異常は認められなかった。

原発性肺癌におけるPHOの頻度は，本間ら<sup>1)</sup>の報告では5%であったが，平潟ら<sup>2)</sup>の報告では0.22%と減少している。これは，CT検査の普及に伴い，早期に発見される肺癌が増えたためと考えられる。

転移性肺腫瘍に合併してPHOは，これまで報告が少なく，われわれが調べた限りでは，腎癌，鼻咽癌，骨肉腫，ホジキン病などを原発とする11報告13症例のみであった。

### 結語

PHOを呈した転移性肺腫瘍の1例について報告した。

### 参考文献

- 1) 本間日臣：肺性肥大性骨関節症 Pulmonary hypertrophic osteoarthropathy の成因。日本臨床 **33**：392-397, 1975
- 2) 西潟洋一，北村諭：ばち指または肺性肥大性骨関節症から発見された肺癌。臨床放射線 **33**：1080-1085, 1995